



三宅正勝元会長追悼号

三宅正勝元会長は、パーキンソン病を発症され、ご自宅で療養中でしたが、2015年3月11日ご逝去されました。衷心より哀悼を捧げます。

会員有志のみなさまより、思い出の言葉が寄せられておりますので、ここに掲載し、故人の人柄と遺徳を偲びたいと思います。



<三宅正勝先生 ご略歴>

- 1934 玉野市生れ
- 1956 岡山大学教育学部卒業 岡山県内の小中学校教諭として勤務
- 1972 岡山県から初めての政府派遣教師として西ドイツ・デュッセルドルフ日本人学校に赴任
- 1975 帰国後、国際理解教育研究会を組織、会長を務める
- 1985 日本ユネスコ協会連盟個人会員に登録
- 1989 就実大学文学部助教授に就任
- 1994 岡山ユネスコ協会を再設立、会長に就任
- 1999 日本ユネスコ運動全国大会 in 岡山を開催
- 1999 日本ユネスコ国内委員会（文部科学省）委員に就任
- 2001 国際姉妹校子どもサミットを開催（トピアの会）
- 2005 岡山市 ESD 推進協議会副会長就任
- 2015 3月11日ご逝去（享年81歳）



三宅正勝先生を追悼して

黒住宗道

2014年11月30日、「AMDА設立30周年を祝う会」で久々にお目にかかった時が、三宅正勝先生との最期の会話になってしまい

ました。思い返せば、その時からちょうど20年前の「AMDА設立10周年」の祝賀会で、私の妹が大学でお世話になったということで声をかけていただいたのが、先生との最初の会話でした。その年、すなわち平成6年(1994)は、「国際貢献トピア岡山構想を推進する会(トピアの会)」が発足した年であり、私が友人と「リコーダーをおくる会」というささやかな国際貢献活動を始めた年でもありました。三宅先生は、これらいずれものNGO活動に対して全面的に賛同して下さい、温かく大きな心で見守り支え、そして一緒に行動して下さいました。私はまるで教え子が恩師に甘えるような思いで、親しくご指導をいただいたものです。

「異文化交流は、まず“胃”文化交流から」、「大切なのは『思いやり偏差値』」、「想いは高く、行動は果敢に」等々。かつて中学生の子供たちに教えておられた大学教授という、三宅先生ならではの分かりやすさとユーモア、そして温もりの溢れる名言の数々が、今も先生の穏やかなお声とともに蘇ってきます。三宅先生、本当に有り難うございました。「トピア構想」という夢を共有させていただいた私たちの活動を、どうぞこれからも見守り続けて下さいますように心からお願い申し上げます。

コンパッション・思いやりの人生—三宅正勝氏を偲ぶ
岡崎博之

三宅正勝氏との出会いは、岡山にユネスコ協会を再建しようとの話があった90年代の初めでした。当時、

岡山県内には地域ユネスコ協会はなく、日本ユネスコ協会連盟の個人会員が三宅先生と私の二人だけでしたので、その集まりに参加してはじめてお会いしました。しばらくして三宅先生から連絡があり準備会をつくることになりました。2年間ほどの準備期間を経て1994年3月12日に岡山ユネスコ協会が設立され三宅先生が会長に就任され、約20年近く会長をしていただきました。

20 数年、お付き合いをいただいた中で、三宅先生の人柄を一言でいうと「思いやり人」でしょう。バラにコンパッション (COMPASSION) という種類の花があり、花言葉に「生きづらい人の苦しみを思いやれること」とあります。三宅先生を偲ぶにあたりこのことばを送りたいと思います。そして、先生の「他に寄り添い、思いやる心構え」に学びながら、先の見えない混沌とした世界状況を突き抜けて「平和の砦」を構築していきましょう。「記憶とは、死に対する部分的な勝利」ということばがあります。岡山ユネスコ協会の記録集を作成することが、そのことばを具現化する唯一の道です。

岡山ユネスコ協会三宅正勝前会長への誓い
佐橋 謙

三宅前会長はユネスコ憲章の前文を地で行くような人でした。前文は「人の心の中に平和のとりでを」という有名な言葉で始まっています。多様な考えを持つ会員を統率し、

一つに纏めようとはせずに、それぞれの考えを伸ばし、少人数ではあっても「岡山ユネスコ協会」としての纏まりを維持する努力を惜しまれなかった人でした。

いまの日本の現状をみると、親が子を殺したり、友人同士が平気で殺し合いをやっています。何という怖ろしい世の中になってきたのでしょうか。話し合いでことを解決しようとせず、暴力 (武力) を背景になんとかしようという人々の意見が政治家の中にも強いようなのが気になります。岡山ユネスコ協会員の皆様、一人一人の心に「平和のとりで」を築こうではありませんか。

三宅正勝先生を偲んで
青山 勳

三宅先生に初めてお会いしたのは、岡山ユネスコ協会の理事会に出席したときであったと思います。正面の議長席にお座りになって、穏やかな表情で会の進行を見ておられ、初めての間も暖かく迎えて頂きました。あれから何年経ったことでしょうか。

その印象は最後まで変わりませんでした。お葬式の日、棺の中の先生を拝顔し、今にも眼をお開けになるのだと思えるほどの優しいお顔立ちでした。岡山ユネスコ協会の創立に尽力され、創立後もいろいろご苦労があったことと思いますが、岡山に、ユネスコ活動を根付かせ、多くの若いユネスコ人を育てられ、今、岡山ユネスコ協会は新しい発展の段階を歩みつつあると思います。ユネスコ協会の発展にまだまだ先生のご経験やお力が必要ですが、このような折に先生を失ったことは痛恨の極みです。

先生は、この岡山ユネスコ協会の新たな発展をいつまでも暖かく、見つめておられると思います。私たちはユネスコに対する先生の深い思いを胸に止め、ユネスコ精神を受け継いで行きたいと思います。 合掌

三宅正勝元会長追悼

小坂田 孟

三宅さんとは 1952 年同じ年に岡山大学の教育学部に入学したころからよく知っていました。三宅さんは学生時代には学友会活動の

放送文化部で活躍していました。お昼休みの時間になると学内に設置されたスピーカーからヨハンシュトラウスの「春の声」の曲が流れ学内放送が始まります。終戦後間もなくのことですから娯楽も少なく、学内にクラシック音楽が流れてみんなの心を和ませていました。この放送文化部で活躍していた彼の姿はよく見ていました。学校でも放送を生かした教育に取り組んでいたように思いますし、NHK岡山とも連携して彼の専門である国語教育に生かされていました。

特によく話すようになったのは彼がドイツのデュッセルドルフ日本人学校へ行き、私もジャカルタ日本人学校から帰り、「全国組織」である「帰国教師の会」の岡山支部として「岡山帰国教師の会」を作ろうやといったころから、何かにつけてよく話すようになりました。いつもウイットに富んだ話しぶりで、含蓄に富んだ話をされるので、皆の信頼も厚く初代の会長をされました。やがて「岡山県国際教育研究会」となり、彼が勤めていた就実大学を会場に全国大会を開催しました。これも三宅氏の力が大きかったと思います。

1993年岡山ユネスコを再興しようと彼が立ち上がり一緒にユネスコ活動をするようになりました。三宅氏は常にみんなの一步先を考えて行動されていました。次々に素晴らしいアイデアを出して数年して岡山で全国大会(1999年)をするまでになったのは三宅氏の人柄と統率力のなせる業だといつも感心していました。これからも彼の意思を尊重して「グローバルに考え行動はローカルに」をモットーに頑張っていきたいものと思います。

三宅正勝先生を偲んで

池田満之

平成5年に奥田節夫先生を通して岡山ユネスコ協会設立準備会に関わるようになり、そこから三宅先生とのおつきあいが始まりました。平成6年の岡山ユネスコ協会の設立時から理事の一人に加えていただき、岡山ユネスコ協会が主催する「ユネスコ地球環境講座」を当初からずっと担当させてもらいました。関わりはじめた頃は、まだ30歳代半ばの若輩者でしたが、三宅先生は会長として、私に「ユネスコ地球環境講座」をはじめとして、数々の活躍の場や機会を与えてくれました。そして、いずれも私がやりたいことをさせてくれました。そのおかげで、今の私があるのだと深く感謝しています。

私は、三宅先生から特に「寛容の心」を学びました。まだまだ三宅先生のような人徳者にはなれていませんが、三宅先生に学んだ「寛容の心」を常に意識し、ユネスコ精神を受け継ぐ次代の担い手の育成に尽力して、三宅先生から受けたご恩に少しでも報いたいと思います。

正勝先生の後ろに詠子さんあり

片山主計

「岡山でユネスコ活動を始めるから手伝ってくれるよな」。ある日の午後三宅先生から声をかけられた。(先生から頼まれたら断れるわけはないでしょう)声なき声が答えていた。

三宅先生とのお付き合いは正式にはいつからか定かでない。教師としては同じ岡北中学へ奉職したが、残念ながら薫陶を受ける機会はなかった。先生がデュッセルドルフ日本人学校から帰られて、早速「岡山県国際理解教育研究会」なるものを立ち上げられた。外国の日本人学校へ派遣されていた者が集まって当時急速に国際化の傾向にあった日本人に、日本人の子供たちに、ほんとの国際化とはどんなものか教育の現場で実践するのが目的であった。以前からそういう教育の必要性を痛切に感じていた私は諸手を挙げて参加した。その面ではかなり先進的であった岡山県は、三宅先生のもとで「国際理解教育」の全国大会を引き受けた。それ以後現在までこの会は岡山県の国際理解教育の中核として活動を続けている。その次がユネスコである。三宅先生は理念を持って、しかも信念を持って事に当たられる。国際理解教育もユネスコもとどまる所は同じであろう。先生の理念に共感し、同じ路線を歩んだ者にとって一つの時代が終わったような気がする。

先生の奥様詠子さんと私は大学も専門も同じである。彼女が学生のころ彼氏と一緒に歩いているのを何度か見かけた。その頃はどんな彼氏だったのか関心がなかった。ところがここ数年先生が体を悪くされてから、色々なパーティーや音楽会など、60年前と同じく常に先生に寄り添っている奥様を見るにつけ、羨ましくもほほえましくもあり、ほんとに幸せな御夫婦だったのだなあと再認識した。

先生のたくさんの著書、デュッセルドルフ時代の学生生活を書いたお嬢様の著書など、先生の手がけられた遺産はたくさんある。それらを心の糧に私も残された人生を精いっぱい生きようと思っている

三宅正勝元会長を悼む

橋本徹決

23年前の、それは秋晴れの日、岡山ユネスコ協会を立ち上げたいのです、と言われてお会いしたのが最初でした。今から思えば、交友経験の豊かな三宅先生が、私の将来を考えて、ユネスコ運動に参加させて下さったのでした。このことを、今では有難く思っています。岡山ユネスコ協会は、二百人以上の会員を集めて1994年3月に結成され、6月に日本ユネスコ協会連盟から承認を得ました。以後、私はこれまで20年以上も先生に仕えさせていただきました。その間に、先生自身の思い入れのあるユネスコ活動に、数多く関わってまいりました。その一つが「地球環境と私たち」の表題による、山陽新聞のエコキャンペーンでありました。このメディアへの繋がりは、1983年から1996年まで、先生自身が日記やメモを下にしたエッセイを、新聞社や雑誌社、放送局と繋がりを頼りに発表されていたのです。それが『平成ニッポンにひとこと』というエッセイ集となりました。さらにもう一つ先生が熱心に関わってこられたのが、「国際理解姉妹校縁組」です。これは岡山県内の小学校や中学校、高等学校とモンゴル・ウランバートル第八二校、フィリピン・メグミ中学校、ネパール・チュラチュラ中学校、韓国・コウジン高校との交流が開始されたのです。この事業は2001年の「こどもサミット」に繋がりました。これらの先生の考え方は、1972年に西ドイツ・デュッセルドルフ日本国際学校に第一期政府派遣教師として派遣された経験から生まれています。これらの経験が、1999年の岡山におけるユネスコ全国大会や、スペインでのユネスコ主催

の「環境教育に関する国際専門家会議」等に大きな影響を与えました。またこれが「2003年のユネスコ未来教育センター」設置構想やユネスコ・パリ本部と共催で2004年に行ったESDつまり「持続可能な開発の為の教育」の国際会議に繋がりました。

このように三宅先生は、早い時期から地球の課題を見据えて、多くのプロジェクトを考えられ、現在のESDに繋がりました。成果発表の場としての「ESDに関するユネスコ世界会議」に参加できなく、ご無念の気持ちでいらしたことは、痛いほど感じます。私たちは、これからもユネスコ精神に沿って、今まで以上に事業に励むことが、三宅先生のご意志に応える道と信じております。

三宅先生の思い出

廣田陽子

「まあ、まあ、そねえ言わんでもええが」。三宅先生の優しい岡山弁と柔らかな笑顔が、会議の張りつめた空気を和らげる。「人の心の中に平和の砦を」

ユネスコ憲章の理念を共有はするものの、岡山ユネスコ協会は、各人各様の主義、主張、興味、関心、かつ人一倍の熱意をもった一筋縄ではいかない人たちの集まり。船頭の多い船は行先を何度も見失いかげ、沈没の危機に瀕したこともあったはずだ。そんななかで自ら舵をきるわけではないが、上手に方向を示し、船を導いてくれる真の船頭がいた・・・三宅先生だ。各人を自由にさせながらも、「それはいけませんよ」と締めるところではピシッと締めてくださった。ユニークな人々を乗せた小さな船が、「第55回日本ユネスコ運動全国大会 in 岡山」、「2001国際環境ネットワーク会議 in 玉野」、一般市民向けの「環境講座」、「絵で伝えよう、わたしの町のたからもの」、「平和の鐘をならそう! In 長泉寺」など数々の主催・主管事業を成功させ、また『岡山の自然と環境問題』等の書籍を出版できた。それらはひとえに、導かないけれども導いている、そんな三宅会長がいらっしゃったからこそだと思う。

昨年、岡山では「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催された。岡山の行政・企業・市民団体・一般市民を巻き込んだこの国際会議の成功は、もちろん多くの人々の参加、協力がなければ成し得なかったことだ。しかし、考えずにはいられない。もし、三宅先生が「岡山ユネスコ協会」という小さなタネを撒き、辛抱強く成長を導いてくださらなかつたら、あの大輪の花は、この岡山の地に咲いたのだろうか？今更ながら、三宅先生の功績の大きさを思う次第である。三宅先生、これからも雲の上から、平和な世界の構築に向けて、岡山ユネスコ協会を導いてください。

三宅正勝先生の思い出

藤木茂彦

三宅先生が岡山ユネスコ協会の再結成に奔走されている頃、設立メンバーに加わるようお誘いをいただきました。当時は医療ボランティア団体のアマダ

など、市民団体、ボランティア団体というものへの関心が高まり始めた頃であったと思います。三宅先生は、ご自分の経験の中から、国際社会の中で活躍できる日本人がどんどん出て来て欲しい、またそういう人材が岡山でどんどん育て欲しい、と思われていたことと思います。そういう中でアマダの活動や、国際貢献ピア岡山構想を推進する会の活動にも大変協力されていました。

ユーモアを愛し、ことばを大切にする人でした。県内の小中学校と海外の学校をつなぐ国際姉妹校を推進され、「こどもサミット」の開催まで漕ぎ着けた時には、そのテーマを一生懸命お考えでした。そして「出会い、ふれ合い、たすけ合い」という素晴らしいキャッチフレーズをつくっていただきました。

現在ではボランティア団体の活動も社会の認知を得て、地域社会の中で大きな役割を果たすようになっていきます。三宅先生、あなたの蒔いたタネは少しずつ世の中の変革を推進してきています。私たち岡山ユネスコ協会の会員を始め多くの市民は、あなたのご功績を忘れず、さらにより良い社会づくりにこれからも邁進していくことでしょう。

<編集後記>

梅雨の時期となり、毎日じめじめとした日が続いておりますが、みなさまお変わりありませんか。今回は、三宅元会長を偲びまして会員有志の方々による個人との思い出を寄せていただきました。会員のみなさま方には、ユネスコの活動について理解していただき、今後のご協力をお願いいたします。ニュースレターを通して、会員の皆様からのご意見、ご感想をどしどし取り入れていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。連絡はメールでもかまいません。

(理事 難波芳子)

発行 岡山ユネスコ協会

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 中国学園大学内

電話086-293-1956 FAX086-293-1957

ホームページアドレス:<http://www.unesco.or.jp/okayama/> E-mail:okayama@unesco.or.jp

